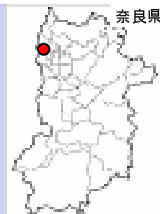


三郷町特集



安全・安心まちづくりアドバイザー(1)

秋留地区自主防災会
防災リーダー
大和 武史さん

県では、自主防犯・防災活動を先進的に取り組んでいる方をアドバイザーとして委嘱し、地域に出向いて活動のノウハウをアドバイスしてもらう「安全・安心まちづくりアドバイザー派遣事業」を実施しています。今回、その中のお一人である大和 武史(やまと たけし)さんをご紹介します。



【きっかけ】 現在、防災活動に取り組んで4年目。平成17年に日立造船(株)を定年退職し、翌年に受講した県主催の「自主防災リーダー研修」が活動をはじめの契機となる。そもそも、自分と家族を守るために申し込んだ研修だが、阪神・淡路大震災で生き埋めになった3万5千人のうち77%が自助・共助で救出され、コミュニケーションのとれた地域ほどその確率が高かったという事実を知り、地域への想いが一気に強くなった。早速、地元で自主防災組織の結成を提案し、意向調査を経て、平成18年9月に調査結果の報告と同時に自主防災会を設立した。その2ヶ月後に防災士認証資格を取得し、日本防災士会奈良県支部に所属する。その後1年間は、防災に関する知識の習得に努め、平成20年から自主防災活動を本格的にスタートさせる。

【活動内容】

アドバイザーとしての活動テーマは、「家具等の転倒、飛来・落下防止対策」で、実技訓練を伴う講習会を開催している。阪神・淡路大震災の人的被害(死者)の原因の88%が家屋や家具などの倒壊による圧迫死と知り、減災のために出来る対策はこれと確信する。手作りの講習会テキストにはコミュニケーションNO.として自分の携帯電話の番号を掲載し、活動の本気さを感じさせる。また、わが家の対策を万全にされているのが人気アドバイザーの所以。「家族の安全が一番大事」と言われる自宅は写真(右)のように、①雨水を有効活用した非常用水のドラム缶の設置②避難時のヘルメットと懐中電灯の備え③水の長期保存タンクと外観点検済みの粉末消火器の備え④避難ルートの段差1mに安全手すり設置⑤家具や電化製品の固定、といった具合に徹底している。



【活動抱負】 これまでの4年間は、地域の防災意識を高めるために活動してきた。アンケートをとり、どれほど効果があったか検証したい。意識の醸成ができたなら、次の目標として、「命を守る方法」について具体的な講座を開催したい。町内外に向けて、①家具の転倒防止対策②タウンウォッチングの実施③防災マップの作成を普及していきたいと考えている。一昨年、地区の学校ボランティアとして校庭裏の木や通学路の竹林の伐採をしながら小学校に顔を出すようになった。これは、災害から子ども達を守りたいという願いを叶えるための試みである。“一歩踏み出す勇気と熱意、信念と根気、実行と改善”(大和さんのテキストより)

三郷町総務課防災担当者からの一言

「三郷町における自主防災の第一人者」

大和さんと町との関係は、平成20年に町が開催した防災講演会の講師を依頼したことから深まりました。当時は、既存の自主防災組織が活動内容や活性化について苦慮していた時期であり、このような時期に自主防災活動の生の声を聞かせていただき、大変参考になりました。また、現在も地域において家具等の固定について精力的に活動されており、地域の防災力が高まっているように感じております。

大和さんにおかれましては、今後も三郷町における自主防災の第一人者としてご活躍いただければと考えております。



【編集後記】

私たちの課のミッションは、自主的な防犯・防災活動を一体的に支援することです。安全・安心を担う主役である地域のリーダーとの出会いを大切にし、継続的なつながりを築いていきたいと思っております。皆さま、よろしく願います(友)